

だし丸くんレポート 第八回はんだ山車まつり



第1回

半田の山車文化について

半田市立博物館 学芸員 山本晃弘

市内10地区の春祭りでお囃子の高らかな音色とともに華麗な山車が曳き廻される光景は、半田の春の風物詩です。年間の



祭礼で使用される山車（荳葉船等含む）の保有数は愛知県内で最も多く、まさに「山車のまち半田」の名のとおりです。

祭礼の起源については定かではありませんが、古い資料によると、宝暦5年（1755年）には

既に山車の曳き廻しやからくり人形の奉納が行われていたことが分かっています。当時は、贅沢や華美なものを禁止する御触れによって、祭礼に規制がかかることもありましたが、幾多の変遷を経て、今日の「山車文化」として多くの人々に受け継がれています。

半田の山車は半田型（知多型）と呼ばれます。半田型はゴマ（車輪）が車の内側にある内輪式で、狭い路地を曳き廻すのに適しています。また、山車のいたる所には、諏訪

の立川一門や半田の彫常一門を始めとする数々の名工の手によって精緻な彫刻が施されているほか、胸部は金・銀刺繍の豪華な幕で飾られています。



さらに、からくり人形の保有数も県内トップク

ラスで、多くの山車でからくり人形の技芸をみることが出来ます。



昨年12月には、亀崎潮干祭の山車行事がユネスコ無形文化遺産への登録を実現しましたが、これは半田の山車文化が評価されたということでもあります。

今年で第八回を迎える「はんだ山車まつり」は、五年に一度だけ三十一輛の山車の勢揃いを体験できる貴重な機会です。祭人の華麗な曳き廻しを始め、お囃子、彫刻、幕、からくり人形など、半田の山車文化の結晶を是非、間近に見ていただければと思います。

防災 Memo

**家庭の備えがとにかく大切です。
普段から家族で確認しあい、事前に備えておきましょう。**

- ☐ 自宅の耐震化と、家具の転倒防止をしましょう。
- ☐ 地域を知り、自宅周辺の危険を把握しておきましょう。
- ☐ 7日分の飲料水、食料、トイレパックを備蓄しておきましょう。
- ☐ 家族との連絡方法・集合場所を決めておきましょう。
- ☐ 避難所や避難場所、避難経路の確認をしておきましょう。
- ☐ ご近所つきあいが大切です。日ごろからの声掛けを心がけましょう。



●問い合わせ 防災交通課 ☎84-0626